公益社団法人2025年日本国際博覧会協会

会長　中西　宏明　様

関西自然保護機構 会長 石井 実

連絡先：大阪市東住吉区長居公園 1-23

大阪自然史センター 気付

TEL: 06-6697-6262

夢洲におけるヨシ群落及びそれに隣接する水辺環境の保全を求める要望書

2020年4月現在、大阪市住之江区にある夢洲は、広大な裸地や草地、水たまりが広がっており、環境省レッドリスト2019で絶滅危惧II類のコアジサシの繁殖が記録されているほか、大阪湾最大のカモ類の越冬地の一つであり、渡りの季節には希少種を含む多くのシギ・チドリ類の中継地としても重要です。隣接する大阪南港野鳥園は、渡りのシギ・チドリ類の種数・個体数が多いことから「日本の重要湿地500」の一つに選定されていますが、夢洲の水域やそれに隣接するヨシ群落は、それよりも規模が大きく、重要性も高いと考えられます。こうした理由から、大阪府のレッドリスト及び、大阪市の生物多様性地域戦略では、夢洲を生物多様性の保全上特に重要な場所（Ａランク：広域的な観点で見ても特に重要な場所）として取り上げています。

特に、夢洲南東部には、約１haの規模の大きなヨシ群落、及び隣接する浅い水域がまとまって残されています。このヨシ群落は、夢洲に浅い水域が成立した後に、風や鳥によって種子が運ばれ再生したものと考えられます。このヨシ群落には、ウラギク（環境省レッドリスト2019、及び大阪府のレッドデータブックで準絶滅危惧）が生育しており、冬期にはチュウヒ（環境省レッドリスト2019で絶滅危惧IB類）も見られます。ヨシ群落の周辺水域は、瀬戸内海東部で最大のツクシガモ（環境省レッドリスト2019で絶滅危惧II類）の越冬地になっています。大規模なヨシ群落が少なくなっている大阪府や大阪湾岸の現状を考えると、夢洲に残るヨシ群落及びそれに隣接する水域を保全することは、大阪府周辺の生物多様性保全の観点から非常に重要です。また、水域にヨシ群落が隣接して広がっている風景は、かつて大阪低地部で広く見られた風景であり、夢洲に大阪の原風景が残ることは、都市と自然の共存という観点からも特筆できるものになるでしょう。

しかし、夢洲が2025年の万博会場となることが決まって以降、急ピッチでこうした湿地・水域の埋め立てが進行しています。現在まとまった規模でヨシ群落が残されている場所は、夢洲南東部の一部（別紙参照）のみとなっていますが、この群落の周辺ではすでに埋め立て工事が始まりつつあります。現在残されている、このヨシ群落とそれに隣接する水域を継続的に維持していることは、上記で述べたとおり、生物多様性保全の観点からは重要となります。

関係各位におかれましては、夢洲におけるヨシ群落及びそれに隣接する水辺環境の重要性を認識していただき、本群落の残置・保存に向けた対策をして頂けるよう要望します。なお、関西自然保護機構は、近畿地方における広い意味での自然保護の諸問題に対するアドバイザリー・ボディ（助言勧告機関）として、必要な協働に参画する意志があることをお伝えしておきます。